「女性整備士と東北運輸局長との座談会」を実施しました

令和５年６月６日（火）１３：３０～１５：３０の２時間、ホテルメトロポリタン山形において、「自分の女子（すき）を貫け！女性整備士の魅力を発信！」をテーマに、山形県内で活躍されている女性整備士６名の方々と田中運輸局長、山形県自動車整備振興会長､副会長の９名により､自動車整備業界への女性進出の課題や待遇等について語り合う、座談会を実施しました。

自動車整備業界は人材不足が深刻化するなど、自動車整備士を取り巻く環境は年々厳しくなっている状況であり、全国の自動車整備士数は約３３万人。この内、女性整備士は約１．１万人（３．３％）しかおらず、「男性の職場」のイメージが強い職業となっています。このような状況の中、これまで自動車整備業界に興味のなかった女性に、自動車整備士の仕事に対する「関心・興味」を持っていただくきっかけとなるよう、生の声をお聞きし、女性整備士の魅力をたくさんの方に知っていただくため、東北では初めての実施となりました。

座談会は、「自動車整備士になった理由」「自動車整備業界のイメージ」「自動車整備士の魅力」等の質問に対し、「車が好きだから」「実家が整備工場を営んでいたため小さい頃から自動車整備を身近に感じていた」など､自動車整備士になった理由を答えていただき、「自動車整備業界のイメージ」については､「力仕事」「男社会」等のイメージがあると語っていました。

また、自動車整備士の魅力については､「社会に欠かせない自動車を整備することで、お客様の生活や地域の安全、命を守る仕事なので、世の中の役に立てることが魅力」「自分が整備した車が走っているのを見ると幸せを感じる」などの魅力を述べられました。

一方で､自動車整備士として働く上で将来的な不安もあり､子育てと仕事の両立に関して職場でのフォローを求める声があり、仕事の責任の重さの割に給料が安いなどの声も上がっておりました。

当日は､山形県内の自動車整備事業者約９０名が座談会の傍聴に訪れ､女性整備士や田中運輸局長等パネラーの話を熱心に聞き入っていました。

講評で田中運輸局長は、「自動車整備業界に入る理由や実際働いているときも男女の違いはないことを、業界全体でアピールし、女性が活躍できるイメージを定着させることが重要であり、また、女性同士のネットワークを増やし、支え合える業界を目指すため関係団体と連携を図りながら自動車業界全体を盛り上げなければならない」と述べておりました。